

平成15年度 定期作況報告

(7月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

稲作科 (岩見沢市)

気象概況

6月下旬：平均気温は平年より0.9 低かった。降水量は平年の24%、日照時間は平均の72%であった。

7月上旬：平均気温は平年より2.3 低かった。降水量は平年の51%、日照時間は平均の149%であった。

7月中旬：平均気温は平年より3.7 低かった。降水量は平年の29%、日照時間は平均の106%であった。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より2.3 低く、降水量は平年比36%、日照時間は平年比105%であった。

6月下旬～7月中旬気象表

項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	20.3	21.8	1.5	21.3	23.1	1.7	20.6	24.8	4.2	20.7	23.2	2.5
最低気温()	12.8	13.1	0.3	12.3	15.2	2.9	13.5	16.7	3.2	12.9	15.0	2.1
平均気温()	16.5	17.4	0.9	16.8	19.1	2.3	17.1	20.8	3.7	16.8	19.1	2.3
降水量(mm)	6.0	25.0	19.0	18.5	36.4	17.9	12.0	41.1	29.1	36.5	102.5	66.0
日照時間(hr)	43.3	59.8	16.5	67.4	45.3	22.1	49.6	47.0	2.6	160.3	152.1	8.2

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成5年～14年の10か年平均値を農試が算出し、使用。

最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

作 況

水稻 作況： やや不良

事由：草丈は平年比73%（きらら397）、74%（ほしのゆめ）、茎数は平年比88%（きらら397）、82%（ほしのゆめ）、主稈葉数は平年比89%（きらら397）、88%（ほしのゆめ）といずれの調査項目とも平年値を下回った。幼穂形成期は平年に比較して4日（きらら397）および6日（ほしのゆめ）遅れ、生育は停滞している。

以上により、現在の作況は やや不良 である。

品種名	移植期(月.日)			幼穂形成期(月.日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	5.19	5.21	2	7.12	7.08	4
ほしのゆめ	5.19	5.21	2	7.13	7.07	6

品種名	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			主稈葉数(枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	39.7	54.3	14.6	613.0	697	84	9.4	10.6	1.2
ほしのゆめ	43.3	58.5	15.2	593.0	722	129	8.6	9.8	1.2

注1) 平年値は前7か年中、平成9年(最凶)、10年(最豊)を除く5か年平均。

注2) 平成14年より従来の泥炭土圃場から奨励品種決定調査圃場であるグライ土圃場に移動した。

注3) 耕種概要

土 壤 細粒グライ土
 施 肥 高度化成472全層施肥 N?P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥2,000kg/10a
 播 種 量 :中苗紙筒 = 180cc/箱
 栽 植 密 度 :30×13.3cm 25株/m² 4本植え
 移 植 方 法 :手植え
 反 復 :2

畑作の部

畑作科 (長沼町)

気象概況

6月下旬：平均気温は平年より0.9 低かった。降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年より少なかった。

7月上旬：気温は低く推移し、平均気温は平年より2.5 低かった。降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年より多かった。

7月中旬：引き続き気温は低く推移し、平均気温は平年に比べ3.2 低く、16.5 であった。降水量は少なく5.5mmで、日照時間は平年並の34.8時間であった。

以上、1ヶ月を通じ気温は低く推移し、平均気温は平年より2.2 低く、降水量は平年比45%と少なく、日照時間は平年並であった。

6月下旬～7月中旬気象表

項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	19.3	20.5	1.2	19.5	21.9	2.4	20.0	23.7	3.7	19.6	22.0	2.4
最低気温()	12.7	12.8	0.1	12.3	15.0	2.7	13.7	16.6	2.9	12.9	14.8	1.9
平均気温()	15.3	16.2	0.9	15.5	18.0	2.5	16.5	19.7	3.2	15.8	18.0	2.2
降水量(mm)	11.0	19.3	8.3	29.5	43.9	14.4	5.5	39.7	34.2	46.0	102.9	56.9
降水日数(日)	4.0	3.2	0.8	1.0	4.0	3.0	1.0	3.6	2.6	6.0	10.8	4.8
日照時間(hr)	29.7	48.3	18.6	54.2	35.8	18.4	34.8	35.6	0.8	118.7	119.7	1.0

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成5年～14年の確定値を10年間平均し、本年値は平成15年の速報値を用いた。

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

作況

1. 秋まき小麦 作況：やや良

事由：7月上中旬が低温に経過し、日照時間は平年並であったことから、登熟は緩やかに進み、ホクシンの成熟期は7月19日と平年並であった。7月20日の生育は、前期までの良好な生育を受け、稈長、穂長は平年より長く、穂数は平年より多かった。なお、倒伏が7月10日の降雨と強風により著しく発生した。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名	成熟期(月.日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホロシリコムギ	-	7.23	-	103	94	9	9.0	8.4	0.6	627	533	94
ホクシン	7.19	7.19	0	96	88	8	10.0	8.2	1.8	696	624	72

注)平年値は前7か年中、平成9年(最凶)、14年(最豊)を除く5か年平均(各収穫年度)。

2. 春まき小麦 作況：やや良

事由：播種が早く栄養生長期間が長かったため、生育は旺盛で、稈長は平年より長く、穂数は平年よりやや多い。今期は晴冷に推移しており、小麦の登熟に良好な条件となっている。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名	出穂期(月.日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	6.17	6.24	7	88	81	7	8.6	8.6	0.0	473	436	37

注)平年値は前7か年中、平成8年(最凶)、14年(最豊)を除く5か年平均。

3. 大豆 作況：平年並

事由：7月上旬以降、気温が低く経過したことから、主茎節数、分枝数はほぼ平年並であるが、主茎長は平年より短く、生育は停滞気味である。

以上により、現在の作況は平年並である。

品種名	開花期(月.日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	-	7.21	-	36.0	41.0	5.0	9.7	9.8	0.1	4.5	4.4	0.1
ユウゾル	-	7.29	-	34.0	36.9	2.9	9.6	9.5	0.1	3.5	2.4	1.1

注)平年値は前7か年中、平成10年(最豊)、14年(最凶)を除く5か年平均。

4. 小豆 やや不良

事由：7月上中旬は著しい低温と平年並の日照時間で推移した。このため、主茎長は平年を大きく下回り、主茎節数も少なかったが、分枝数はやや多かった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名	開花期(月.日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリシヨズ	-	7.24	-	11.2	19.6	8.4	6.6	7.6	1.0	4.1	2.3	1.8

注)平年値は前8か年中、平成12年(最凶)、14年(最豊)および8年(茎疫病多発)を除く5か年平均。

5. ばれいしょ 作況：やや良

事由：6月中旬までの乾燥土壌状態は6月下旬の降雨により解消された。開花始は6月22日で、平年より3日早かった。しかし、7月上旬以降、気温が平年よりかなり低温に経過したため、生育はやや緩慢となった。前期までの良好な生育経過を反映して、7月20日現在の生育は、茎長、茎数とも平年を上回っている。また、病害の発生は僅かに散見される程度である。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名	開花始(月.日)			茎長(cm)			茎数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	6.22	6.25	3	42	39	3	5.0	4.4	0.6

注)平年値は前7か年中、平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年平均。

6. てんさい 作況：やや良

事由：前期までの干ばつ気味の状態は6月下旬の降雨により解消されたが、7月上旬以降、低温に経過したため、生育はやや緩慢となった。前期までの平年を上回る順調な生育を反映して、7月20日現在の生育は、草丈が平年比98%、葉数が平年比106%、根周が平年比104%と平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

栽培法	品種名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	54.6	55.5	0.9	22.1	20.8	1.3	23.8	23.0	0.8

注)平年値は前7か年中、平成10年(最豊)、12年(最凶)を除く5か年平均。

7. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。

訂正

平成15年6月20日発表の定期作況報告において、大豆の主茎長、主茎節数の平年値に誤りがありましたので、下記のとおり訂正をお願いします。

品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	9.8	10.0	0.2	3.7	3.0	0.7
ユウヅル	9.9	10.0	0.1	3.7	3.0	0.7

主茎長(cm)			主茎節数(節)		
本年	平年	比較	本年	平年	比較
9.8	10.3	0.5	3.7	3.3	0.4
9.9	10.1	0.2	3.7	3.2	0.5